

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号**473**にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願ひ致します。  
★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:**472** 1口1000円～ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願ひ致します。  
★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:**471** 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願ひ致します。  
★JOSO脱プラ基金は注文番号:**474** 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願ひ致します。

# COOP-JOSO News Letter

2021年9月3回号 発行:常総生協広報G



2021年度活動テーマ「笑顔で育む免疫力」

## 水海道のお米「めぐみちゃん」 新米がスタートします！

今年も9月3回から水海道のお米「めぐみちゃん(コシヒカリ)」がスタートします。めぐみちゃんとは、生産者である「東町特栽米耕作者組合」と常総生協がお付き合いを始める時に付けたお米のブランド名です。めぐみちゃんの産地である常総市は、一級河川の鬼怒川・小貝川に挟まれ、肥沃な大地が広がる米作りに好条件な地域です。コシヒカリの特徴である甘みと粘り気のある食感を、米作りのプロたちが最大限引き出しています。



### 東町特栽米耕作者組合 会長 田口さんからのメッセージ

日頃より「めぐみちゃん」のご利用ありがとうございます。今年は2～3月の遅霜や直近のゲリラ豪雨や高気温など天候不順が多かったですが、順調に育っていると思います。こちらを見てもうと分かるように、今年は稲穂がとても長く、お米が美味しい証拠です。これは5月～7月に日中の寒暖差が大きかった為です。また直近のゲリラ豪雨もお米にとっては適度に降ったので、生育も稻の色もぐっと良くなります。初期除草剤1回のみで一番大変だったのは「雑草」です。稻を覆い隠す勢いで、どんどん生えてくるんですよ。取っても取っても追いかけるように生えてくる、毎年ですが大変な作業でした。収穫時季を迎えようやく落ち着いてひと段落です（笑）  
早い田んぼで9月1日～収穫を開始します。今年もたっぷりお召し上がりください！

（写真上:田口さん、写真下:田口さん稻穂の写真 2021/8/26撮影）



### 9月3回水海道「めぐみちゃん」のお米

- 502001** 白米5kg 特価**2,295円(2,479円)**通常税込2,538円  
**502002** 玄米5kg 特価**2,190円(2,365円)**通常税込2,430円  
**502003** 白米2kg 特価**926円(1,000円)**通常税込1,021円

→毎回お得♪お米の定期購入契約はこちらのQRコードからご登録ください。

お米の定期購入契約はこ  
れ





## ～終戦の日に寄せて～今だから、読んでほしい「戦争体験」 Part.4

### 5人目 桐谷 士朗さん 88歳

#### 【空襲】

昭和20年3月 その夜空襲警報で、小学校の校庭に避難した。激しい空襲だった。目の前で校舎が音を立てて焼け落ちた。防火用水も火たたきも何の役にも立たなかった。寒さと恐ろしさに歯の根も合わなかつた。わけもなく涙が止まらなかつた。夜が明けて家に帰ると、家は無かつた。まだ燃えている家もあった。防空団の人達が焼けた死体を片付けていた。警報機も焼けてこの日以降空襲警報は鳴らず防空団の人が知らせ回っていた。B29は人が見える程低空飛行しても高射砲はならなかつた。防空壕を掘り起こし土の中の支柱や棚板を使ってバラックを作つた。

【学校】 学校は疎開から帰つた6年生と東京に残つたわずかな児童だけだった。校舎が焼けてないので開店休業状態だった。青空の下で卒業式らしきものがあつて、中学生になつた。中学は無試験同様だつた。毎日のように学校の農園で肥え担ぎ※2をさせられた。体育は銃剣術。木製の銃剣が長く重くて閉口した。憲兵上がりの教師※3のビンタはひどく、叩かれると吹つ飛んだ。



※2 人間の小便・大便（＝肥え）を畑の肥料をするため、子どもたちは「勤労奉仕」として運ばされた

※3 軍人が教師として学校に入つてきて、体育の時間に体操などはやらず「銃剣術」を指導された。木の筒の先端にナイフを装着し、一歩ずつ敵を突く練習をする。ちゃんとやらないと殴られた。

#### 【敗戦】

特殊爆弾の話を聞いた。その夏、敗戦だつた。空襲の無い日々が戻つた。二学期の始め、先生が民主主義の話をした。昨日まで忠君愛国を説いていた先生なのに「よく言うよ」と思った。

学校の近くの伊勢丹が進駐軍の宿舎だつた。時々兵隊が校庭に遊びに来た。上半身裸でアメフトのボールで遊んでた。でかくて黙臭かった。

食料はなんとか配給されていたが、殆ど進駐軍の放出物資だった。ふすま、豆かす、トウモロコシの粉、くず粉が多かつた。あちらでは牛の餌だと聞いた。ついこの前まで「鬼畜米英」とか、みんな言つていたのに、今は「ギブミーチョコレート」。ラジオでは、証誠寺の狸囃子※4の曲で「カムカムエブリボデ」が大はやりだった。平川唯一の英会話教室である。

※4 「しょ、しょ、しょじょ寺、しょじょ寺の庭は～♪の歌を替え歌にして「カム・カム・エップリボデ・エップリボデ・ハウアユー」

### 6人目 石川 秀治さん 90歳

#### 【小学校の思い出】

福島県岩城郡田人村田人尋常小学校南大平分校、ここが私の6年間通つた学校である。教室は2教室（1～3年生と4～6年生の教室）先生は2名。全校児童80名程度。当時、「盡忠報國（じんちゅうほうこく）」「滅私奉公（めっしほうこう）」「忠君愛國（ちゅうくんあいこく）」というような言葉を嫌という程聞かされた。

教育の力は偉大なもの、多くの国民はそれに向かって一丸となつていった。その一環としての奉仕作業が「カラムシ採集」であった。カラムシの茎の皮を剥ぎ、皮から纖維を取り、糸を製して織物にする。それで兵隊さんの軍服を作る。この意識のもとに鎌を片手にカラムシ採りに真剣に取り組んだものである。採つたカラムシは束にして水に浸ける。皮が剥ぎやすくなるためだ。皮を剥いだら束に結わえて、天日で乾燥させ、農協へ運んでいく。

#### 【朝会】

朝会は毎朝行われていた。先ず回れ右で、東京の方へ身体を向け、「宮城（きゅうじょう=皇居）に対し奉り、最敬礼」の号令で始まる。

日中戦争に引き続き太平洋戦争と軍国主義教育のまつただ中。こんな山奥にもその教育は浸透していた。朝会時には時々ラジオのニュースを聞いた。ラジオがあるのは地主と学校だけ。授業は始まる前、椅子に座つたまま、全員で「ジンム、スイゼイ、アンネイ、ウトク・・・」とお経のように歴代天皇の名を唱えてからだった。

#### 【朗読会】

当時の国語は文を読むことが主で、毎年11月に朗読会が行われた。4つの分校が本校に集まり各代表が大勢の前で本を朗読する。

本校までは6kmの距離。分校での反復練習はかなりの厳しさ、気持ちがこもつてないと吐られ涙を流しながらの練習だつた。5年生の時、私は分校代表で「稻村の火」を読んで最優秀賞を貰つた。当時本校の子に勝つことは夢だった。

#### 【戦争を知らない私たちへ】（父 戸取大吉郎のインタビューから）

今また日本政府は、戦闘機をバンバン買つてゐる。戦争に向かっている気がしてならない。もっと若かつたらデモでもなんでもするのに、それができない。新聞を読んで地団太をふむばかり。

「戦争」は人間を狂わせる。「人間」が「人間」でなくなつてしまふ。戦争は絶対にやってはいけない。そのためには戦争で苦しんだ様々な人の体験を伝えていくことが必要になるだろう。「体験者ならば、もう二度と経験したくない」と思う。せめて若い人に伝えて、そういう気持ちになってもらいたい。行動を起こしてもらいたい。

（職員 木本）

# 理事会よもやま通信 第19号

常総生協はみんなの「ほしい！食べたい！知りたい！」を応援します

発行 常総生活協同組合理事会

TEL0297-48-4911

FAX0297-45-6675



大豆プロジェクト、前回はどんぐりていさんでの播種の様子を報告しました。今回は、長島さん方、横瀬さん方を理事が訪問させていただいた様子をご報告します。

△微生物農法の会・長島さん

7月25日、長島さんの畑にお伺いしました。長島さんは、畑に直接大豆をまくのではなく、まずはポットで発芽させるそうです。発芽には、ロシアのミチューリン法という方法に取り組んでいるとのこと。なかなか思うように発芽しなかったのですが、いつでも新たな方法に挑戦するお姿がとても素敵だなと思いました。理事2人も長島さんから少し大豆をもらって、ミチューリン法を試してみましたが、これがまた難しくて。時間やタイミングで発芽の状態が変わることを、身をもって体感しました。長島さんの熟練した技術に改めて感動しました！農業の現状や課題など、様々なお話を伺い、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。（中山）

大豆プロジェクト、前回はどんぐりていさんでの播種の様子を報告しました。今回は、長島さん方、横瀬さん方を

理事が訪問させていただいた様子をご報告します。

△アグリ古柿土・横瀬さん

訪問は播種後の8月5日でした。播種は横瀬さんがお一人でされたそうです。暑い中広い畑に小さな大豆を手で撒く大変さ、私自身もどんぐりていさんで体験しましたが、本当にきつい作業です。感謝の気持ちでいっぱいでした。播種から三日、ほとんど雨も降っておらず、畑は見るからに乾燥していました。しかし、よく見るとそこには大豆の芽が顔を出していました♡

そのまま煮れば私たちの食卓を彩り、土に埋めれば、次の代を残そうと新しい命を育む、大豆だけに限りませんが、農業とは、種とは、奥深いものだと改めて感じました。横瀬さんの奥様は銅版画家としてご活動されているとのこと。ご厚意でアトリエを見学させていただきました。色彩が美しく、とても素敵な作品ばかりでした。何もない白いキャンバスに作品を生み出す様子が、畑に命を広げていく様子と似ているなど、感傷に浸りながら帰路につきました。（中安）

除草等、組合員で協力したいところですが、緊急事態宣言下では、大きく募ることができません。残念です。ニュースレターやホームページで随時畑の様子はお伝えしていきます。

皆さんもぜひ大豆の成長、各生産者さんの凄さを体感してください♪

## 大豆プロジェクト △微生物農法の会・長島さん(行方市) △アグリ古柿土・横瀬さん(守谷市)



常総生協が好きだー！